

児童の心身の健康に関する啓発活動の在り方

—保健だよりの活用を通して—

長期研修生 上谷友紀

1 研究の目的

近年、社会環境・生活環境の急激な変化に伴い、学校現場において児童を取り巻く心身の健康課題が多様化しており、保健教育の必要性が高まっている。これまで、学校では、保健教育の啓発のために保健だよりを発行してきたが、その内容は養護教諭からの一方的なものであることや、効果的に保健だよりを活用できていないことなどに、課題を感じていた。そこで、児童や保護者の意見を取り入れた保健だよりを作成し、保健だよりを基にした教職員用の補助指導資料を活用することで、各学級で発達段階に応じた保健教育が行うことができるようになり、児童、保護者が、家庭で、心身の健康の保持増進に向けて、考えたり取り組んだりすることができるのではないかと考え、本研究に取り組むこととした。

2 研究の内容

(1) 文献等による研究

小学校教育における保健教育の目標は、「各学年の発達の段階の特徴を考慮して、身近な生活における自己の健康課題に気付き、その課題解決に向けて自ら取り組み、健康な家庭や学校づくりに貢献するための資質・能力の基礎を育成すること」である。保健だよりは、法的な位置付けはないものの、9割を超える養護教諭が定期的に発行していることや、健康情報の発信及び家庭とのコミュニケーションの手段として活用されていることが分かっている。

(2) 実態把握のためのアンケート調査

6月と11月に、研究協力校の2～6年生児童、保護者、教職員を対象に、①保健だよりに関する意識、②心身の健康に関する意識、③保健だよりの活用状況の3項目についてアンケート調査を行った。

(3) 保健だより及び教職員用補助指導資料の作成

ア 保健だよりの作成

5・6年生児童、保護者、教職員を対象に、「保健だより掲載内容希望調査」を実施し、その結果と学校保健年間計画を基に、保健だよりの掲載内容を決定した。例えば、児童、保護者から掲載希望の多かった「けが、応急処置」は、年間計画では9月に保健教育として「けがの防止」を教科等の指導に位置付けていることから、9月の保健だよりで扱うこととし、保健だよりを活用して継続した指導ができるようにした。

イ 教職員用補助指導資料の作成

保健だよりの内容について、児童に指導したいポイントをスライドにまとめた。

(4) 保健だよりの発行及び教職員用補助指導資料の活用

ア 養護教諭による指導

学級担任が保健教育の進め方をイメージできるように、1回目の指導では、養護教諭が教職員用補助指導資料を基にした紙芝居を活用して、保健教育を行った。

イ 学級指導での活用

児童の発達段階や学級の実態に合わせて、教職員用補助指導資料を活用し、学級担任による保健教育を行った。

ウ 教職員用補助指導資料の動画の活用

教職員用補助指導資料を基に、約5分間の動画を作成し、活用した。

エ ホームページへの掲載

学校のホームページに保健だよりのページを作成し、保健だより及び教職員用補助指導資料の動画を掲載した。

(5) 実践の検証

ア 保健だよりに関する意識の変化について

児童は、必要な情報が多く掲載されていることに気付き、健康に関して理解を深めようとしており、保健だよりが家庭で心身の健康について考えるきっかけにつながったと考えられる。

イ 心身の健康に関する意識の変化について

児童は、自分の健康について振り返ったり、保護者に伝えたりしていた。また、心身の健康について、子どもと話をする家庭が増えた。

ウ 保健だよりの活用状況について

家庭で保健だよりについて話している保護者が増加し、子どもと情報を共有していることが分かった。

3 研究のまとめ

掲載内容希望調査を踏まえた保健だよりを基に、補助指導資料を活用し、発達段階に応じた保健教育を行うことで、児童は心身の健康の保持増進に関して理解を深めようとするようになった。また、家庭において、保健だよりが健康について考えるための一つ的手段として活用された。さらに、児童、保護者のニーズを把握した保健だよりの活用は、学校と家庭をつなぎ、児童の心身の健康の保持増進について啓発する上で一定の効果があった。

今後は、家庭での実践につながるような保健だよりを作成し、啓発の仕方を工夫して、教職員が無理なく継続して保健教育を行えるよう、より効果的な保健だよりの活用方法を研究していきたい。